## ゼントします。

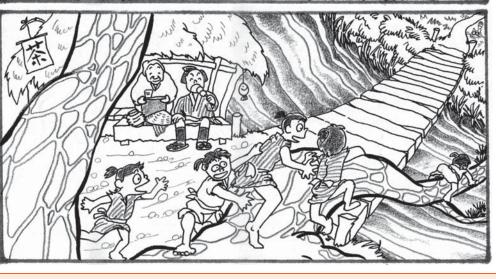
つけてね。全問正解された方のうち、抽選で102枚の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見 人の方に図書カードもしくはクオカードをプレ

6月15日(月)



秘書広報課 ☎66◆1145

発表は、発送をもって代えさせていただ ○1 FX66◆1190)へ。なお、当選者の 見などを書いて秘書広報課(〒43-86 ④年齢⑤電話番号⑥広報紙の感想、 ハガキまたはファクスに①答え(左の絵 に○をつける)②住所③氏名(ふりがな) ご意



きます。

の北側の道を通って静岡方面へ向かう道だった。 南を通り、国道の北へあがる。落合川を渡り、また南へ下り厚生館病院道と呼んでおった。国道23号線の南側を通り、犬飼公会堂(塩津)のすぐむかーし、平坂街道から分かれて東へ向かって行く海際の道を、鎌倉街

あんが団子をあわてて食べてのど詰まらせて、 6本の松は落合川にかかる板橋の西の川淵に生えている。 おいらの向かいに茶屋がある。赤い布を敷いた縁台に、水戸黄門の八つ おいらは松。鎌倉街道を行き交う旅人たちを50年間見てきた。おいら達 お茶飲んでほっとして

足早に西へ向かう若侍。

るような茶屋だ。軒先に草履がつるしてある。

癒す。 伊勢参りへ行く初老の夫婦が、茶屋の縁台に座って一杯のお茶で疲れを

見上げながら団子2本食べていく。 重い荷物を担いだ行商のおじさんはいつもここでひと休みし、おいらを

あ、 の松に登る。となりの松は川に覆いかぶさるように生えている。その幹 る。おいらの枝ぶりをまじまじと見てる。ちょっと照れちゃうよ! のおばあちゃんとひと言ふた言話をして、おいしそうに団子を食べてい と静かに縁台に座り、ちょうちんとかぶっていた三度笠を置いた。茶屋 いつの間にか近所の子どもらがわらわら集まってきて、おいらのとなり から次々に川へジャーンプ!(昔の落合川は深かったのだ) ≒古さんはニコニコ笑いながら、川の子らに三度笠を持った手を振りな 向こうからちょうちん下げた人が来たぞ。仁吉さんだ。茶屋に着く

糸屋のおばあちゃんが何か慌てている! したの?おばあちゃん…え?

がら出発していった。清水の次郎長を尋ねていくんだろーなー。

ちょうちん忘れてっちゃったー 吉良の仁吉さ~ん!

☆はおいら達6本の50年松は伐採されてもうい 吉良一家を興したが、28歳の時荒神山のけんか年間過ごし、兄弟の盃を交わした。その後西尾で と呼ぶようになったのさ。吉良の仁吉は幕末末 というわけで落合川の茶屋を、吉良の仁吉茶屋 期に活躍した侠客だ。清水の次郎長のもとで3 で亡くなった。

とうふねこ座:市川雅子

画

【参考資料】 蒲郡風土記 著.. 伊藤天章



吉良の仁吉茶屋(栄町